

報道機関各位

担 当 社会教育課 文化・文化財担当 上村

TEL/FAX 0942-65-3360 / 0942-53-4216

E-MAIL syakai@city.chikugo.lg.jp

筑後市郷土資料館 出張特別展示

1964 年東京オリンピック金メダリスト

東洋の魔女 大崎雅子氏 寄贈資料展



東京オリンピック選手ブレザー（大崎氏寄贈品）

1964 年 11 月 12 日羽犬塚駅前パレード写真

- 名 称 1964 年東京オリンピック金メダリスト
東洋の魔女 大崎雅子氏 寄贈資料展
- 日 時 令和 8 年 3 月 1 日（日）～ 令和 8 年 3 月 15 日（日）
9：00～17：00（月曜は休館）
- 場 所 サザンクス筑後 ギャラリー（筑後市大字若菜 1104）
- 目 的 筑後市出身の大崎（旧姓：近藤）雅子さんから、1964 年東京オリンピック金メダル獲得に関する品々の寄贈を受け、郷土の偉人の功績を称える目的で特別展を開催するもの。
- 経 緯 令和 7 年 11 月に大崎さんより、「筑後市のスポーツ（バレーボール）の発展に寄与したい」との申し出があり 1964 年東京オリンピック金メダル獲得に関連する資料 37 点の寄贈を受けた。令和 8 年 1 月 29 日に西田市長が大崎さんを訪問し、感謝状を贈呈した。
- 内 容 寄贈された 1964 年東京オリンピック選手ブレザーや女子バレーボールチームジャージ、背番号エンブレム、写真、表彰状、記念品等を展示する。
- 特 徴 1964 年東京オリンピックから 61 年が経過し、当時を知る方々も少ない。筑後市出身の方にオリンピック金メダリストがいたことを、若年層をはじめ、多くの市民の方々へ知っていただき、筑後市のスポーツが更に発展することを願うために実施するもの。



おおさき まさこ
大崎 雅子 さん

1941年3月27日生まれ（84歳）

筑後市出身（旧姓：近藤^{こんどう} 雅子さん）

日本の女子バレーボール選手

1964年東京オリンピック女子バレーボール金メダリスト

ポジション：アタッカー

「東洋の魔女^{とうよう まじょ}」と呼ばれ 1964年東京オリンピック女子バレーボールで金メダルを獲得し 世界的に活躍した選手

大崎（旧姓：近藤）雅子氏の略歴

1953年（昭和28年）	古川小学校卒業
1956年（昭和31年）	古川中学校卒業
1959年（昭和34年）	八女津女子高等学校卒業（現：八女学院高等学校）
1960年（昭和35年）	実業団チーム倉敷紡績女子バレーボールチーム
1964年（昭和39年）	東京オリンピック代表に倉敷紡績から選出
1964年（昭和39年）10月23日	東京オリンピック金メダル獲得
1964年（昭和39年）11月12日	筑後市で市中パレード・歓迎会の開催
2025年（令和7年）11月5日	東京オリンピック金メダル獲得に関する資料の寄贈



東京五輪(1964) 日本代表選手団開会式
ブレザー



東京五輪(1964) 表彰式で着用のジャージ

展示予定の寄贈品 (一部)



筑後市へ凱旋時のパレード写真 (羽犬塚
駅前)



パレード後の歓迎会写真

広報ちくご



「おめでとう近藤さん」金メダルをおみやげに郷土入り。(11月12日、市民の歓呼の中をオープンカーで市中パレード=駅前商店街で)

12
1964

No.128

こ
よ
み

- 1日 歳末たすけあい運動はじまる
- 3日 戦没者遺霊伝達式 □観光協会役員会
- 4日 人権週間はじまる (10日まで)
- 7日 定例市議会はじまる □農業委員会
- 9日 移動行政苦情相談 (於中央公民館)
- 15日 国民年金の検認はじまる
- 22日 冬至
- 25日 クリスマス □農業委員会 □固定資産税、都市計画税の納期限
- 28日 御用納め、役所の仕事はこの日まで
- 31日 おおみそか 除夜の鐘

○
とじて保存してください。
○



近藤選手お
かえりなさい

わきあがる敬
声。11月12日午後3時15分
すぎの羽犬塚駅前広場は、約5
千人の人の波でいっぱい。

九州でただひとつの金メダル
に輝く東京オリンピック女子バ
レーの近藤雅子選手（23才鶴田
出身）が晴れの郷土入りをした
胸に金メダル、真赤なブレザ
ーコートに白いスカートの晴れ
姿で駅頭の大歓迎陣にこたえた
近藤選手は、つづいてオーブン
カーで市役所前までパレード。
このあと市民会館で歓迎会に
うつり、近藤選手は「郷土の皆
さんのおかげで優勝できました
」とあいさつ、「今後の選手生
活や結婚のことなどはまだ考え
ていません」と質問に答えた。
なお近藤選手は、記念に「世
界の魔女たち」のサイン寄せ書

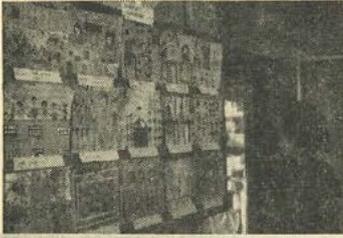
きを中央公民館に贈り、22日勤
務先の自坊へ帰った。〔写真は
駅前で花束うつける近藤さん〕

市民会館は手じ
なようだった

「しみんか
いかんをみ
せてもらって、どうもありがと
うございました。カーテンのよ
うなもの（どん帳）やマイ
クが、あがったりさがったりし
て、てじなようでした。」

これは11月10日、古川小学校
3年生のよい子たち70人が、市
役所、中央公民館、市民会館な
どを見学して、29枚の絵とも
にさっそくおくってきた15通の
お礼状のひとつである。

市役所や公民館では、このよ
い子たちのお礼に感激して、こ
れらの絵と手紙をはり出して一
般市民にみてもらった。
〔写真は市役所掲示板にかざら
れた古川小のよい子たちの絵〕



広報ちくご 1964年 12月号 「近藤選手おかえりなさい」



「近藤さんがんばれ」

郷土が生んだ
オリンピック選手

「先」日、ブレザー・コートの
かり縫いができて、よう
やくオリンピック選手らしい感
じがしてきました……。」

オリンピック選手（女子バレ
ー・ボール）に選ばれた近藤雅
子さん（鶴田出身）が、9月上
旬、合宿先から母親の初枝さん
にあてた手紙の一節です。

近藤さんは、古川中学から八
女津高校をへて倉紡倉敷へ入社
チームをささえる名スパイカー
として国内はもちろんアジア、
欧州各地で活躍、その鋭い攻撃
力を買われて、東洋の魔女、ニ
チポーを主力としたオリンピ
ック選手に選ばれたもの。

「お」母さんのはなしによると
こどものときから負けん
気は強かったが、反面なかなか
の家族思いで、とくに妹の春乃
さんにはやさしいお姉さんとの
こと。手芸や読書を楽しむのが
趣味で鶴田の自宅にはレースの

テーブルクロスが、数々のメ
ダルや綯といっしょにならべら
れていました。

「自」宅には両親の伊助さん、
初枝さんのほか5人家族
が、彼女の健闘を祈っており、
今月15日には両親と妹さんの3
人は東京まで応援にかけつけら
れるとのこと。

ともあれ、コンドリータにかけ
る期待は大きいのですが、
「チームにもとげこんだし、バ
レーの面でも日紡の人たちにも
負けない自信がついた」と近藤
さんの手紙はむすばれています
〔写真は激しい練習のあい間に
寮でくつろぐ近藤雅子さん〕

広報ちくご 1964年 10月号 「近藤選さんがんばれ 郷土が生んだオリンピック選手」



2026年1月29日 西田市長から大崎氏へ感謝状を贈呈（市長の首には大崎氏が1964東京オリンピックで獲得した金メダルが掛けられています）

【市長面会時のインタビューと書面にてお返事をいただいたもの】

1. 子供の頃の筑後市の思い出は？

小さい頃は水田天満宮のお祭りによく行きました。また、中ノ島の大楠や桜並木はすごくきれいで懐かしいですね。矢部川にはよく泳ぎに行きました。

2. バレーボールはいつごろから始めたか？

古川小学校6年生頃から始めました。当時の先輩たちが強かったんです。

それからチームから何人か八女津女子高等学校（現：八女学院高等学校）に進学しました。

高校では県大会に出場するくらいのレベルだったが、実業団チームの倉敷紡績女子バレーボールチームの監督が見に来ていて、「是非うちにきて欲しい」ということでお世話になりました。

3. オリンピック選手に選ばれた時の感想は？

全く選ばれるとは思っていなかったが、大松先生には、よく声を掛けられていました。私は運が良かったと思います。周りの人やチームに恵まれたと思います。両親ともに当時としては身長があった方だと思いますし、健康に生んでくれた両親に感謝しています。

4. オリンピックの雰囲気は？

最高に楽しかったが、倉紡の代表というプレッシャーは強かった。

5. オリンピックの思い出は？

当時の練習方法は、あり得ないほど厳しく、今考えるとおかしい練習もあったと思います（回転レシーブやうさぎ跳びなど）。昼食もチームを半分に分けてとっていましたが、練習がきついのであまり食べられなかったり、吐いたりする選手もいました。あと、レシーブの時にユニフォームが破れるので、エプロンみたいな前掛けをして練習していました。

6. 金メダルを獲った時の感想は？

ホッとした気持ちが強かったが、後々嬉しさが湧いて来ました。

7. 筑後市へ凱旋した時の感想は

夢のようでした。両親が喜んでくれたのが一番の幸せでした。

8. バレーボールをする子どもたちに伝えたいことは

自分で始めた事は「続けてやる」ことだと思います。